

## 第12回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議・議事概要

日時：令和2年9月14日（月）19時～21時

場所：沖縄県庁6階 第2特別会議室

### 議題1 警戒レベルについて

○県内の感染状況報告、死亡退院者の感染状況等について資料説明

- 1 入院患者が減少しているが、入院患者の中に高齢者が多く、陰性にはなっているが、後遺症で動作時に酸素吸入が必要等により退院できない状況がある。
- 2 警戒レベルについて、対策本部会議で警戒レベル第3段階であることとした。
- 3 各判断指標についても下がってきていることを確認。
- 4 その指標の中でも、新規感染者の数が大事な指標。注意深く見る必要がある。
- 5 患者数は減っているが、若い人が検査を受けているか、必要な人が検査を受けられているかという視点が必要。
- 6 検査を受けやすくすることが必要。

### 議題2 医療のフェーズと受入体制について(自宅療養の取扱い)

- 1 入院患者の減少、ホテル療養者の減少があり小康期。
- 2 自宅療養という選択肢について、7月下旬から8月の患者が急激に増えた中で新しくできた対応である。この体制からまた入院や宿泊療養に戻すのか。
- 3 県民にとっては自宅療養という選択肢は浸透しているため宿泊療養等に戻すことは難しい。自宅療養を認めないとすると、検査を受けない人がでてくる懸念がある。
- 4 自宅療養を認めつつ、検査を積極的に推進する方針がのぞましい。
- 5 ただし、60歳以上の高齢者については重症化リスクが高いため、自宅療養よりはホテル療養もしくは入院がのぞましい。
- 6 入院医療提供体制に関しては、専門家会議の委員以外の医療機関の病院長の意見も伺う必要があるため、病院長会議において議論してほしい。

### 議題3 今後の検査体制について

○行政検査、検査体制拡充、社会的検査について資料説明

- 1 これまで行政検査というものは保健所が介して衛研で検査を実施してきたが、民間の医療機関でもできるようになるというかたち。
- 2 検査体制拡充する中で全体を把握するのが難しく、整理が必要。
- 3 「行政検査とはなにか」ということのコンセンサスを得る必要があり、わかりやすい

表現が必要。

- 4 最近検査の偽陽性、偽陰性がでており、陽性者だった人の取り下げが起きていることから問題提起があった。検査方法や検査機器等様々あり、検査値の統一等については国等で検討してもらい、専門家会議では問題提起にとどめる。

(補足)

- ・第1波のときは PCR 検査は 300 件程度実施。9 月時点では 970 件ほどに検査体制拡充されている。
- ・検査拡充とは、検査実施機関の増加により検査できる能力が増えたこと。また、検査方法の多様化として抗原検査、唾液の PCR 検査方法があり、医療機関でもできるようになったことが検査件数の増加につながっている。  
今後はさらに民間含めて検査機関の増加を予定している。

#### 議題4 医療機関・福祉施設への支援について

- 1 クラスタ対策班は、これまで対策本部に設置しクラスタが発生した施設に対して、厚労省や県外から派遣された方々に協力してもらっていた。現在は対策本部から派遣応援が撤退。今後は県内の人材で体制をつくっていくことが必要。
- 2 高齢者福祉施設における集団感染が多くあったため、福祉部門での人材を活用して体制をつくっていくことが必要。
- 3 保健所ではクラスタ発生やその恐れのある施設へ訪問し、初動の体制はとれるが、継続支援は難しく、今回、対策本部からのクラスタ班派遣に助けられた。有効だったと思っている。
- 4 県内の ICT や ICN の活用については、大事であり、今後調整を進めてください。